

ピースワインズ・ショップから

チョコレートギフトシーズン続行中!
各種チョコレートが好評です。

バレンタインデーに続き、まもなくホワイトデーがやってきます。チョコレートを贈ったり、贈られたりすることが多いこの季節に、ピースワインズ・ショップのフェアトレードチョコレートはいかがでしょうか。

フェアトレードチョコレートは贈られた人のコロコロを満たすだけでなく、カカオ産地の人たちもハッピーになります。期間限定のピースコーヒー ハートラベルとチョコの組み合わせもステキですね。

フェアトレードチョコレートとコーヒーで、一人でも多くの誰かと「愛」と「ハッピー」を分かち合いましょう!



ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

FAX:03-3465-2112 またはTEL:03-5738-8021まで

※ピースワインズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

お礼やご挨拶にも!ピースコーヒー
「春が来た!」バージョンを販売しています。

まだまだ風は冷たく、寒い日が続いているが・・暦の上ではもう春!街を歩くと木々の芽のふくらみを感じられる今日この頃。春はもうすぐですね。

ピースワインズ・ショップでは、明るい色調のお花をアレンジ

して春の到来の喜びを表現した

ピースコーヒー「春が来た!」ラベルのレギュラーコーヒーとドリップバッグ3Pセットを期間限定で販売いたします。春は別れと出会いの季節。お別れ時のお礼や、初めて出会う方へのご挨拶にぜひ、「春が来た!」ピースコーヒーをご利用ください。

オンラインショップでご注文いただけます。皆様のご来店をスタッフ一同お待ちしております。



支援のプロを、
世界の現場へ



巡回医療ゼロの離島で 一災害時の医療支援体制確立へ

瀬戸内海に浮かぶ愛媛県上島町の離島、高井神島。人口は26人しかいない。この島で昨年11月上旬、88歳の男性が、ピースワインズ・ジャパン(PWJ)が取り組む巡回診療の出張所に訪れた。「3日くらい食欲がなく、食べても吐いてしまうんです」。男性は39度近くまで発熱。その症状を診た鈴木強医師は、肺炎の可能性を疑い、すぐに救急艇を手配した。男性は30分後に到着した救急艇に乗せられ、島から一番近い広島県の病院に搬送された。検査の結果は鈴木医師の診断どおり、「肺炎」だった。緊急入院が決まった。

この島には、隣の魚島の診療所に常駐する医師が診療に訪れていたが、昨年5月に離任した。後任の医師が現れなかったため、PWJは上島町と提携して6月から両島で巡回医療を開始。毎週2回、ベテランの鈴木医師や看護師をヘリに乘せ、PWJが本部を置く広島県神石高原町と島を行き来する。診療は毎週延べ約50人にのぼり、患者たちからは、「丁寧に診てくれてありがたい。いい先生が来てくれた」といった感謝の声が届いている。

過疎地の医療問題は、離島や山間部が抱える共通の課題だ。安心して暮らせないと、人口の流出にも歯止めがかからない。今回の事業は、このような「危機」を食い止めるモデルケースになり、「地域再生」につなげていくことも目的の一つとしている。また、平時から地域の医療機関と連携することで、自然災害などの緊急時に迅速に動ける医療支援体制の構築を目指す。医療は1分1秒が勝負。PWJは医療の分野でも、新たに社会に貢献できる体制を整えていく方針だ。



- 12/28 毎日新聞愛媛版 上島に全寮制高校設立
20年開校へ紛争や貧困内外の子供に
- 12/30 NyAERA (ニヤエラ) 58号
熊本地震で見えた同伴避難の「心得」
- 12/30 ニッポン放送「LOVE&MELODY」
10時のグッとストーリー
- 1/1 Weekly News 西の風 (東京都西多摩地域のタブロイド紙)
「犬殺処分ゼロを目指し 犬譲渡センターを開設」
- 1/29 AERA2018年2月5日号「社会制度の設計も社会起業家の
仕事です」

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースワインズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨)を明記してください。

【銀行口座】

● PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースワインズ・ジャパン広報口

● PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人 ピースワインズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

支援者のみなさまへ

いつもPWJの活動にご支援を賜り、深く感謝申し上げます。PWJの2018年度が2月1日、幕を開けました。昨年度は企業や行政、NPOなどで活躍するイノベーターたちがPWJの本拠地に集い、日本の未来を語り合う「ソーシャルインベーションサミット2017 in 神石高原」を開催したほか、動物殺処分ゼロのプロジェクトで連携するSEKAI NO OWARIと協力した日本最大級の譲渡会「フレーメンパーク」なども初開催しました。こうした活動を実現できたのは、皆様のあたたかいご支援のおかげです。改めて、感謝申し上げます。今年度も、「チャレンジ(挑戦)」と「イノベーション(変革)」の方針を貫き、様々な社会課題に立ち向かっていきます。引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



支援のプロを、世界の現場へ

2017年度(2017.2.1~2018.1.31)のPWJ活動一覧

南スーダン

国内避難民と周辺地域の住民が衛生設備を不自由なく利用し、健康な生活を送れるような事業に取り組みました。首都ジュバ市内の避難民キャンプでは、仮設トイレの建て替えや給水所、水浴び場の修繕などを行ったほか、周辺地域の公衆衛生普及員や学校の衛生クラブの活動を通して、正しい手洗いや安全な水の確保の仕方などを生徒と住民たちに伝えました。

シェラレオネ

2017年夏、首都フリータウン郊外で豪雨による土砂崩れや洪水が発生したことを受け、被害状況を把握するための調査をしました。11月には被害の大きかった6つの地区の一つであるカニンゴ地区で、被災地域の早期復旧に向けた支援事業を開始。どちらも、現地NGOと協力して実施しています。

日本

東日本大震災

震災からもうすぐ7年。宮城県南三陸町の現地NPOの運営をサポートしながら、交流拠点の運営を通じて高齢者の生きがいや地域の人たちのつながりを再構築する活動を続けています。高齢者の経験や技能を活かし、地域に貢献できる自立した団体を目指していきます。

ガザ



2014年の紛争で特に多大な被害を受けた北ガザ、ハーン・ユニス、ラファハの18~25歳の若者を対象に、生活改善に向けた事業を開始し、2017年は就業経験のない若者を市民団体へ派遣したり、研修を開いたりして、今後の心構えやキャリアに対する考え方などを指導しました。

イラク

シリア難民、国内避難民に加え、彼らを受け入れる地域の脆弱層の生活の質を向上させるため、4つの州のキャンプ内外で教育、水衛生、生活物資、シェルター、キャンプ整備など多岐にわたる支援をしました。加えて、国内避難民が故郷に戻りやすくなるように、教育や基礎インフラ整備の分野で帰還民支援も実施しました。



アフガニスタン

日本の2つのNGOとアフガニスタンの代表的な市民団体ネットワーク組織3団体と連携し、25県の市民団体に対し、事業運営、財務、広報、政策提言などに関する実務研修を実施しました。また、地方の市民団体が実施する事業を同ネットワーク組織が総合的に管理することで彼らの事業管理・監督能力強化も行いました。



ネパール

2015年に発生した大地震の震源地だったシンドゥバルチヨーク郡で、地元の大工を対象に耐震技術研修をしました。また、野菜栽培の方法や販売技術の指導をして農家の生計向上を図る新事業を始めました。インド国境地域で発生した洪水の被災世帯に対しても、食料や生活必需品、寝具などを提供しました。

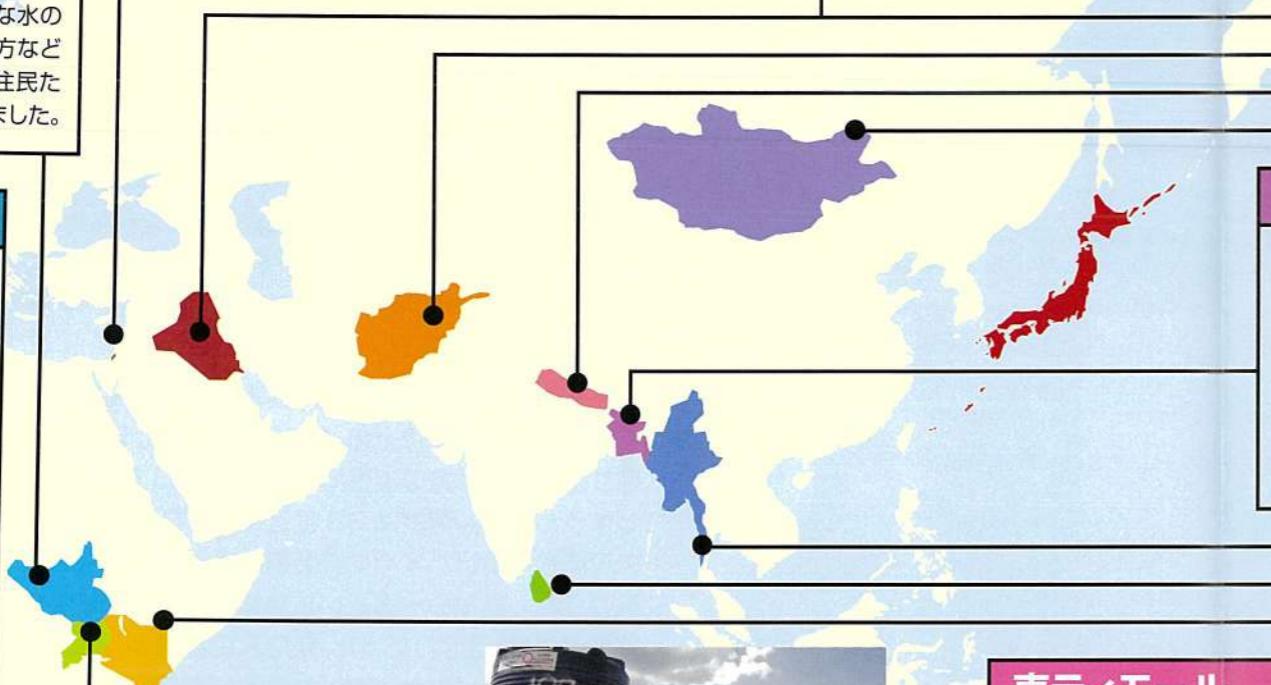


モンゴル

親の死亡や育児放棄、貧困などで孤立した子どもたちの支援を、保護施設「ペルビスト・ケアセンター(VCC)」を通じて続けています。施設では今も約40人の子どもたちが暮らし、将来自立して社会に出ていけるよう教育や訓練を受けています。

ハイチ

2016年10月に上陸したハリケーン・マシューは南県とグラナダンス県に大きな被害をもたらしたため、異なる地域にある7つの学校や幼稚園で、園児や高校生たち2075人分の教科書や学用品、黒板などを提供しました。2018年には技術習得に関する新事業を始める予定です。



ウガンダ

ビディビディ難民居住地区で水タンクやソーラーパネル井戸給水システムを設置し、飲料・生活用水を安定して供給できるようにしました。また、お年寄りや障がい者など特別な支援を必要とする人々向けに、トイレや住居の建設を進めています。他にも、居住地区内の小学校で教師や生徒たちの衛生環境を整えるため、仮設トイレを建設。人が多く集まる場所での衛生普及活動も合わせて実施し、難民たちの衛生に関する知識を深めています。



東ティモール

老朽化が進むコーヒーの木や畠を正しくメンテナンスできるように、将来のコーヒー産業を担う子どもたちを対象に小学校での出張授業を行いました。また、東ティモールで2度目のコーヒーの品評会で、PWJが支援するピースコーヒーの生産者グループが2年連続のグランプリに輝きました。



ケニア

5月中旬に洪水に見舞われたダガハレキャンプでは300軒の仮設住宅を建設しました。また、1,473軒分の住宅資材を、主にハガテラキャンプへ移送される難民に配布しました。ダダーブとカクマの両事務所のスタッフが話し合いながら事業を進めています。



スリランカ

内戦後の帰還民の生計向上支援に続き、組合の組織強化を通じた農業・酪農業の生産性向上や地域市場の開拓に取り組んでいます。2017年度は、深刻な干ばつを受けて、腎不全にかかる率が高い地域の住民に飲料水フィルターを支援し、その後発生した洪水によって甚大な被害を受けた住民には生活用品を配布しました。



佐賀

5月にパリで開かれた国際工芸フェア「REVELATION2017」に佐賀の伝統工芸7事業者の作品を展出。制作にあたってフランスからデザイナーを2名招き、新しい作品を完成させました。「ピースクラフトSAGA」のウェブ、SNSを通じた情報発信にも力を入れています。入院する子どもに付き添う家族の宿泊施設「ファミリーハウス佐賀」の立ち上げ支援も行いました。



ピースワンコ・ジャパン事業

広島県で殺処分対象になった犬の全頭保護を続け、「殺処分ゼロ」を守りました。犬舎を増設する一方、譲渡センター2カ所を新たに開きました。また、他の保護団体に対する助成事業を始め、17団体を支援。SEKAI NO OWARIと協力して犬・猫の譲渡会を開催しました。災害救助犬、セラピー犬に加え、獣害から農地を守る「里守り犬」の育成も始めました。



地域創生（広島県神石高原町・瀬戸内）

広島県神石高原町では、特産品ショップとカフェを併設した「マルクトプラツ」の運営と、体験型観光施設「神石高原ティアガルテン」の運営支援を継続、帝釈峡の観光PRにも貢献しました。愛媛県上島町では、現代芸術家ゲルハルト・リヒターの作品の公開を続けたほか、離島にヘリコプターで医師らを定期的に派遣する巡回診療を始めました。



熊本地震

熊本県益城町の仮設団地の自治会役員や住民を対象に、宮城県、新潟県の被災地視察や研修の機会を提供し、震災からの復興を支援しました。住民や地元団体と協力し、仮設団地でのイベントの支援もしました。また、被災ペット支援として、犬・猫の保護や譲渡活動を行う3団体をサポートしています。

